

クラウド環境の現状レポートと今後

クラウドの安全性の状況と実用的ガイダンス




エグゼクティブ サマリー


計算処理、データ保管、そしてコラボレーションがクラウドに移行するにつれて、資産の安全確保がIT担当者の大きな懸念事項になってきています。全世界で97%の組織が何らかのクラウドサービスを利用していますが、と同時にクラウドにおける可視性やコントロールの問題にそれぞれが取り組んでいます。可視性が限られてしまうことを幹部が嫌ってクラウドへの移行に遅れている組織もあれば、セキュリティ問題に直面するリスクを知らながら大胆にクラウド移行を進める組織もあります。

マカフィー®は2017年後半、様々な産業や国で、大小様々な規模の組織のIT担当者1,400人を対象に年次アンケートを実施し、現在のクラウド利用状況やセキュリティ問題について調査しました。本年度のレポートは、クラウドセキュリティのベストプラクティスに関する実用的なガイダンスを主要目的にしており、現在の利用パターン、懸念事項、そしてインシデントを調査し、組織が直面する差し迫った課題に対応する専門知識を提供します。


セキュリティ問題はいたるところで見られます。IaaS (Infrastructure-as-a-Service) または SaaS (Software-as-a-Service) を利用している組織のうち、4社中1社がデータの盗難、また5社中1社がパブリッククラウドへの高度なサイバー攻撃の被害を受けた経験があると回答しました。一部の組織では、EU 一般データ保護規則 (GDPR) への対応を進めています。本調査では、この新規則によって今後のクラウド採用に起こりうる影響についても質問しました。


主要調査結果¹


 **97%**の組織がクラウドサービス (パブリック、プライベート、またはその複合) を利用。昨年度の93%から増加。

 **65%**がクラウドファースト戦略を採用。昨年度の82%より減少。

 **83%**が機密データをパブリッククラウドに保管。

 **69%**が、パブリッククラウドで機密データを安全に保管できると信用。

 **4人中1人**が、パブリッククラウド上のデータの盗難を経験。(SaaSおよびIaaSの両方で判明)。

 **5人中1人**が、自社パブリッククラウドインフラに対する高度なサイバー攻撃を経験。

エグゼクティブ サマリー

調査対象者は、オーストラリア、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、インド、日本、メキシコ、シンガポール、イギリス、およびアメリカの、小規模（従業員500～1,000名）、中規模（1,000～5,000名）、大規模（5,000名以上）の組織の技術意思決定者です。

結論および推奨事項

可視性が高いほど、組織は革新的クラウドサービスを自信をもって早期に採用し、セキュリティ上の脅威に迅速に対応し、またクラウドによるコスト削減の恩恵を享受できるようになります。一部だけをクラウドで管理するよりも、すべてをクラウド化の方が見通し良くなります。

可視化を重視する組織では、各事業部門のニーズにマッチさせるため、あらゆるクラウドサービスを使用しています。こういった組織ではシャドーITには寛容な傾向があり、シャドーITを一刻も早くシャットダウンしようとする代わりに、これを新しい傾向や有益なアプリケーションの初期的な指標だととらえています。これらの組織は可視性を最大限に高めて、管理上の最適なアプローチに関して、十分な情報を得たうえで判断を行いたいと考えています。

本年度の調査結果に基づき、本レポートでは、すべての組織が積極的に取り組むべきベスト プラクティスを3つ推奨しています。

1. DevSecOps プロセス。DevOps および DevSecOps は、コード品質を向上させ、セキュリティ上の脆弱性を低減させます。現在のビジネス環境の変化のスピードについていくためには、事業部門内またはアプリケーション チーム内での開発、品質保証、及びセキュリティプロセスの統合が欠かせません。
2. Chef、Puppet、またはAnsibleのような、展開自動化および管理ツール。どれほど経験豊富なセキュリティ専門家であっても、手助けなしにクラウド展開のボリュームとスピードについていくのは困難です。自動化は、人間の長所を機械の強みで補強するもので、これは現代のITオペレーションの基本となっています。
3. すべてのクラウド サービス及びクラウド プロバイダーを集中管理する、統合セキュリティ。管理ツールを複数使用していると、見落としが起る可能性が高くなります。複数のクラウドを管理する、単一のオープンな統合構造の管理システムを使用することで、管理を単純化します。

レポートの全文は[こちら](#)でダウンロードできます。



40%のIT部門リーダーは、サイバーセキュリティのスキル不足のためにクラウドの採用が遅れている。



DevSecOpsを用いている組織では、コンテナやサーバーレス コンピューティングの確保のための戦略を持つ確率が**2倍**。



27%のITセキュリティ予算がクラウドのセキュリティに費やされており、12か月後には37%に達すると推定される。



EU 一般データ保護規則 (GDPR) によってクラウドへの投資が減少すると予測した組織は**10%以下**

*調査方法および調査対象についてはレポート本文の付属書をご覧ください。



〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂1-12-1
渋谷マークシティウエスト20F
www.mcafee.com/ja

マカフィーおよびそのロゴ、ePolicy Orchestrator、および McAfee ePOは、McAfee、LLCまたは米国およびその他の国の関係会社における登録商標または商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。Copyright © 2018 McAfee, LLC.3873_0418
2018年4月